

# 新春 知事対談 “いちご王国・栃木”の魅力

とちぎ未来大使の佐藤美希さん、江森宏之さん、栃木県女性農業士会会長の手塚敏子さんをお迎えし、広報官・パティシエ・生産者の立場からいちご王国・栃木の魅力について、知事と対談していただきました。

※感染防止対策を講じた上で対談しています



らい重要だと考えているのが、売り方。お店のブランディングも、もう1度行きたくなるようなお店を考えてやっています。



えもり ひろゆき 江森 宏之

足利市出身。パティスリーメゾンジブレ(神奈川県大和市)のオーナーシェフ。2015年ミラノ万博でのスイーツの世界大会では日本代表のキャプテンとして出場し、優勝

していると聞いていますが。  
**手塚** 食育の一環として、栃木県女性農業士会で作りました「いちごの話」という紙芝居があるんです。とちぎのいちごは安全・安心ないちごだよということや、農業の大切さを伝えるのに使っています。また、地域の小学校や幼稚園、保育園の子どもたちに収穫体験をしてもらうことや、小中学校にいちごを提供する活動もしています。

## いちご王国で あり続けるために

**知事** それぞれの立場で、とちぎのいちごに強い思いを持っていただいているようで大変うれしく思っています。今後、いちご王国・栃木を盤石なものとしていかなければなりませんので、皆さんのお力をぜひお貸し願いたいと思います。

**佐藤** ぜひ頑張らせていただきたいと思います。私はメディアや、SNSを通して全国の皆さんにとちぎのいちごの魅力伝えるのが一番かなと思います。まずは食べていただきたいですね。私自身も食べた率直な感想をSNSにアップして広めていきたいと思っています。

**手塚** 生産者の立場からは、とにかく安全・安心でおいしいいちごを作りたいと頑張り、またいちご王国の生産者として誇りを持って、この後も仕事を続けていきたいと思っています。

**知事** その良い素材を提供できるように、県としても、いちごの経営者を育てるため、今年の4月から県農業大学校にいちご学科を創設することにいたしました。実践的な栽培技術や経営管理について学ぶことができ、卒業後は県内で円滑に就農できるよう支援していきます。

**手塚** 栽培技術だけでなく、経営を学べるということは就農した時にとても大切なことなので、両方学べるのはいいことだと思います。卒業した後に地域に若い人が入ってくれるのは私たちの刺激にもなるので、大歓迎したいと思います。

**知事** 生産者の方からも、そういうお話を聞いて心強く思っています。県としても、AIやICTの導入・普及を推進していますが、先端技術も活用し、品質の向上や省力化につなげることで、産地の活力を高めていきたいと考えています。

## 魅力の発信

**佐藤** 今まで当たり前のようにいちごを食べていましたが、おいしいいちごを作ってくださる生産者さん、そしていちごを使って楽しませてくれる方もいるということに感謝しながら、発信していかなければいけないと改めて思いました。

**知事** さすが未来大使、ありがとうございます。これからも引き続き、そういった情報発信に取り組んでいきたいと思っています。そこで今年も1月15日、県庁舎と県議会議事堂におきまして、いちご王国・栃木の記念イベントを開催する予定です。開催の場合は感染症対策をしっかりと講じます。また、同日からYouTubeでいちご王国・栃木のプロモーション動画の配信も予定していますので、ぜひご覧いただきたいと思っています。

**佐藤** 今時ですね。YouTubeで発信するというのも良いですね。  
**知事** いわゆるインスタ映えするとちぎのいちごをどんどん発信していかななくてはと考えていますので、佐藤さんもお願いますよ。

**佐藤** 私自身も発信していきたいと思えますし、日常でSNSを見ていても、検索ハッシュタグや位置情報から見る子がたくさんいるんです。なので、かわいい・おしゃれな写真を撮って、ハッシュタグもつけてアップすることで、より見る方が増えるんじゃないかと思えますね。

**知事** 手塚さんは女性農業士として地域の子どものためにいちごについて発信



てつか としこ 手塚 敏子

鹿沼市出身。栃木県女性農業士会会長。宇都宮市で夫と共に手塚農園を経営し、いちごのほか、水稲やマンゴーを生産

**江森** 僕も住んでいた時そうだったんですが、いちごが身近になり過ぎていくんですね。いちごがこれだけあるのはすごいことだということを再認識していただいて、県内の方の自覚をもう少し上げていきたい。さらに僕は県外の店から、とちぎのいちごを使ったケーキでどんどんPRしていけたら…佐藤さんの発信力、僕のケーキ、知事の発表、そして手塚さんをはじめとした生産者さんの頑張りがあったらすごく良いんじゃないかと思うんです。

**知事** 心強いですね。52年連続生産量日本一のいちご王国・栃木のプライドと自信を県民一人ひとりがさらに強めて、全国、そして世界に良いものを売ってきたいと思っています。

今日は本当にありがとうございます。いちご王国・栃木の国王として、心強い新年のスタートとなりました。生産の振興と、さらには関連産業の発展のためにも、オールとちぎ体制で努めていきます。引き続き、作る立場、そして消費者にお届けする立場、さらには全国や世界の人たちへ発信する立場、お三方のお力をお借りしながら、いちご王国を100年に向けて取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

対談の様子は県ホームページでもご覧いただけます

とちぎインターネット放送局 [検索](#)

## とちぎのいちご・新品種とちあいか

**知事** 新年あけましておめでとうございます。本日のゲストはとちぎ未来大使の佐藤美希さんとパティシエの江森宏之さん、栃木県女性農業士会会長の手塚敏子さんです。

**三人** よろしくお願います。

**知事** 江森さん。他の県もいろいろないちごの品種を出していますが、栃木県と他の県の特徴をどう感じていますか。



栃木県知事 福田 富一

**江森** 栃木県の良いところは、注文してから届くまでが早いところ。採れたてがお店でも食べられるのは、びっくりするなと思っていて。いろいろな品種を作ってくださいるので、僕の店だけで同じいちごのタルトでも4種類ぐらい出せるんですね。味と色と形が違って「とちぎのいちごの食べ比べ」なんてできるので…。

**佐藤** それが県外でできるのは素晴らしいですね。

**知事** お客様にとってもうれしいですね。さて、新たに登場した品種、とちあいか。名称は投票で最も得票数が多かった「とちあいか」に決定しました。全国の皆さんに「愛されるとちぎの果実」になってもらいたいという意味が込められています。ぜひ召し上がってください。

**佐藤** 色が今までの品種と違いますよね。深い赤で…切り口がハートなんですよね。でもこのままでもハート！これはもうテンション上がります！甘い！

**手塚** 酸味が少ないですね。

**知事** そこがとちおとめとの違いですね。また、粒も大きい。

**手塚** 病気にも強く作りやすいと聞いています。

**知事** いちご研究所の職員が素晴らしいいちごを開発してくれました。

**佐藤** 軟らかいんですけど、しっかり歯応えがあって、ジューシーさもあって、全部が詰まった品種だと感じました。



さとう みき 佐藤 美希

宇都宮市出身。タレントとしてCMやバラエティ番組、グラビアなど多方面で活躍するほか、とちぎの魅力広報官としても活躍中

## とちぎのいちご生産者

**知事** とちぎのいちご生産者に対して、どのような印象をお持ちですか。

**江森** いちごに対して、すごく真剣だというのが感じられますね。とちぎの生産者さんは、みんなで栃木県のいちごのレベルを高く持っていこうという意識が感じられるんですけど、そんなことないですかね。

**手塚** いえ、あると思います。地域には生産部会というのがありまして、苗を植えた後の現場や他の生産地を視察するなどの勉強会は毎年やっています。若い後継者が集まる青年部では最新の情報を取り入れて、ベテランの生産者同士でも情報交換をしながら、よりおいしいいちごを作ることに力を入れていると思います。

**知事** 江森さんの周りのパティシエの方もとちぎのいちごを使っていますか？

**江森** そうですね、ほとんどがとちぎのいちごになるんじゃないかと思えます。実はパティシエを始めて日本で働いている間、クリスマスの時期にとちぎのいちごしか使った覚えがないんです。  
**手塚** 生産者はそう言っていたのが一番励みになります。

## いちご学科での人材育成

**知事** 江森さん、新鮮な果物を使うことがお店のコンセプトとお聞きしましたが、それがお店の強みになっているんですか。

**江森** そうですね。僕たちは生産者さんから素材をいただいて、おいしいケーキを一生懸命作るのが仕事なんですけど、おいしいケーキを作るのと同じく



江森さんが作られた「とちあいか」のタルト。フルーツたっぷりのタルトはお店で人気の商品